



常日頃、TVの釣り番組を熱心に見て、一緒に興奮しているエルミタージュの主。だから、行くと決めたら、大変だ。早朝、ガバッと起きるなり、いきなり「行くぞ！」とのたまう。「エッ？どこへ？」「釣り」ということになる。バタバタと用意して、飲まず食わずのまま、朝刊抱えて、諸磯を目指して進路を南東に。6か月ぶりの釣行となった。

まず、いつもお世話になっている三崎のフィッシング・スクール・グラントのお店に立ち寄る。ご店主は「オヤジ」と自称していた。先月亡くなられたのでお悔やみを申し上げる。オヤジがないお店は何か気が抜けたような感じである。残念で寂しくてたまらない。彼はエルミタージュの主と同じ年だったので、まるで同級生がやって来たかのように、親しみを込めて接してくださった。元は高校の化学の先生、釣好きが高じて、魚が寄りつく匂い、海の中ですぐには溶けないための餌を研究、開発された。引退後に三崎に釣りのお店を開かれた。釣りの仕方を教え、釣り場を教え、竿の修理をしてくれた。「先生魂」があって、人好きで、世話好きで、話好きなオヤジであった。生涯現役で、釣りキチ生活をエンジョイする予定だったのに、突然の病気に倒れた。釣好きの奥様が「夢を見たまま逝った」と、ご主人の人生を振り返り、それを励みにお店を続けるとのこと。奥様の上に御慰めがありますように。

餌、イソメ、針などを買って磯辺に出る。岩場を歩き、崖ににじり寄って進んで、諸磯の高跳びという釣り場に陣取る。仕掛けを作るのに余念のない主。私は、水を汲み、タボを開いてから、諸磯の自然に見入る。空には雲はなく、靄がかかっているようだったが、昨日、初冠雪したばかりの富士山が遠くにかすかに見えた。海は輝く青だった。陽光が波に跳ね返って、キラキラと輝く。魚が泳いでいるのが見える。目の前に相模湾が広がり、本当に気持ちが良い。潮の匂い、波が寄せるさまに魅せられる。この日は、トンビ、カモメ、サギがなぜか沢山寄って来た。そして、アオサギがジッと岩場に佇んでいた。しばらく海を眺めてから私は車に戻り、本を開く。主は夢中で団子の餌をつけて遠投していることでしょう。

この日は手ごろなメジナが大漁で大喜び。帰宅後、私は大わらわ。三枚に下ろして、上品な南蛮漬けの出来上がり。刺身にできる魚も欲しいな。

